

富山県氷見地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和7年度第5回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われているが、農業と漁業の連携をより一層強化し、今後の活動に取り組まれない。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 定置網漁業は環境負荷の少ない漁法であり、環境面での優位性や魚の鮮度が高いことを消費者に宣伝し、販売することが望まれる。
- (2) 地元市民への周知について、例えば、他の地域でも取り組まれているシンポジウムの開催や応援商品の開発、ロゴマークの普及などを通じて PR に取り組むことが望まれる。
- (3) 高齢化の問題に対応していくため、定置網漁業は、雇用維持や地域社会での助け合い精神の醸成に貢献するものであることを引き続き発信していくことが望まれる。
- (4) 当地域は定置網漁業を中心に、中山間地域の稲作など独自の経済・文化があり、伝統的な定置網漁業を、沿岸の農林業との連携を価値として維持していくことが望まれる。また、農林漁業関係者の将来的な生活・生計についても説明することが望まれる。
- (5) 環境保全型農業が漁業に及ぼす効果について、河川の水質の継続的なモニタリングを実施するとともに、環境保全型農業の実施により質の良い魚が取れていることについて、消費者への発信を強化することが望まれる。
- (6) 伝統的価値や技術を、消費者に評価してもらう方策について検討されたい。例えば、定置網技術の技術移転料などにより収益化し、地域内で循環させる仕組みづくりや、ロゴマークの普及、ふるさと納税の活用等について検討し、次期保全計画の項目を立てることが望まれる。
- (7) 次期保全計画の策定にあたっては、現行計画における各目標値をそのまま踏襲するのではなく、目標設定の検証を実施した上で目標値に反映することが望まれる。

(以上)